

平成30年 4月入学

岡 山 大 学

大学院ヘルスシステム統合科学研究科

(博士前期課程)

学 生 募 集 要 項

**Graduate School of
Interdisciplinary Science and Engineering in Health Systems**

(Master's Course)

OKAYAMA UNIVERSITY

岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科3つのポリシー

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）

ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを達成するために、本研究科博士前期課程では次のいずれかの資質を持つ者を求める。

- それぞれの出身学部における分野で必要とされた知識を修得しており、医療現場を構成する人々としくみ（ヘルスシステム）の課題解決に向けて、分野を超えた学際的研究に強い意欲を持つ者。
なお、出身学部における分野で必要とされた知識とは、例えば、工学系では生命医用工学分野等、医療系では創薬科学分野、または保健学分野等、人文社会科学系においては哲学、倫理学、宗教学、歴史学、人類学、または法学等である。
- 自ら選んだ研究分野における基礎研究や応用研究に留まらず、異なる分野の研究手法を積極的に取り入れることに強い興味と意欲を持つ者。
- 医療現場を構成する人々としくみ（ヘルスシステム）の課題解決に向けて、社会での活用可能なアイデアを現場と連携して創出することに強い興味と意欲を持つ者。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

人材育成のサイクルをなす、4群の活動（①自然・社会（現場）に対して、②それを観察解析する学術を行う活動が対応し、③構成的な学術を行う活動として、その知見を応用してものづくりや新制度考案などアイデア創出を行い、④その成果であるアイデアを応用して行動する活動がまた①自然・社会（現場）を相手にしていく（社会での活用）、という4群の活動が循環するサイクル）に対応連携させて、

- ヘルスシステム統合科学としての前期課程レベルの専門を扱う「統合科目」
- ヘルスシステム統合科学を構成する専門分野の知識や思考を前期課程レベルに深化させる「専門科目」

の二種類の科目からなる統一カリキュラムを編成する。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

学部教育で学んだ専門に重層して他専門領域の手法を学び、課題を創造的に解決する能力と専門的知識を有することが前提である。この前提により、社会の多様な場で課題解決に貢献できる専門知識と研究能力を身に付けた人材として、医療現場を構成する人々としくみ（ヘルスシステム）の課題を理解し、研究及び技術開発、そして物質面及び人間の理解を併せ持つことで、個人の専門分野を活かしつつ他分野を理解できた上、社会において活用されるモノやアイデアを他者と協働して創出することで、課題の解決に貢献しイノベーションの基盤を支えることができる専門知識と研究能力を身に付けた学生に「修士（統合科学）」の学位を授与する。

目 次

平成30年 4月入学

I 一般入試	1
II 外国人留学生特別入試 学生募集要項	7
III 出願書類の提出先	13
IV ヘルスシステム統合科学研究科 専攻案内	15

添付書類（出願書類等）

志願票・受験票・写真票

履歴書

研究計画書

受験票送付用封筒

連絡受信先届

入学検定料振込用紙

I 平成30年 4月入学 一般入試 学生募集要項

手続の日程等

項 目	期 日 等
出願資格審査書類提出期間	平成29年12月11日(月)～12月13日(水) 出願資格審査の必要な者のみ
出 願 期 間	平成30年1月9日(火)～1月11日(木) 出願書類等は別途掲載
試 験 期 日	平成30年1月27日(土)～1月28日(日) 学力検査等及び出願書類により総合的に評価し選考します。
合 格 者 発 表	平成30年2月16日(金) 10時
入 学 手 続	平成30年3月19日(月)及び3月20日(火)

手続等の詳細については、次ページ以降を必ずご覧ください。

I 平成30年 4月入学 一般入試 学生募集要項

1 募集人員

専攻	募集人員
ヘルスシステム統合科学専攻	80人

※ 募集人員については補足説明がありますので、別添「大学院ヘルスシステム統合科学研究科の募集人員について」を必ずお読みください。

2 出願資格

次のいずれかに該当する者又は平成30年3月までに該当する見込みの者

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者（平成17年文部科学省告示第169号参照）
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号参照）
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により他の研究科に入学した者で、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの
- (10) 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したもの
- (11) 大学に3年以上在学した者で、大学院が定める単位を優秀な成績で修得したと認められたもの
- (12) 外国において学校教育における15年の課程を修了した者で、大学院が定める単位を優秀な成績で修得したと認められたもの
- (13) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者で、大学院が定める単位を優秀な成績で修得したと認められたもの
- (14) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、大学院が定める単位を優秀な成績で修得したと認められたもの

(注1) 2の「出願資格(2)」に該当する者とは、次のいずれかの者です。

- ① 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が発行する学位授与（申請受理）証明書を提出できる者
- ② 学位規則（昭和28年文部省令第9号）第6条第1項の規定に基づき独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が定めている要件を満たすものとして認定を受けている専攻科に在籍する者で、当該専攻科の修了が見込まれること及び当該者が学士の学位の授与を申請する予定であることを当該専攻科の置かれる短期大学長又は高等専門学校長が証明できる者

(注2) 2の「出願資格(3)」に該当する「外国において学校教育における16年の課程を修了した者」とは、外国において正規の学校教育における16年の課程を修了した者です。

なお、大学卒業までに16年を要する国で修学した者が、飛び級している場合は、16年目の課程を修了していれば、22歳未満であっても上記に該当します。

(注3) 2の「出願資格(9)」に該当する「学校教育法第102条第2項の規定により他の研究科に入学した者で、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの」とは、他の研究科へ飛び入学により入学

した学生が本研究科へ入学を希望する場合、「5出願手続(5)出願に必要な書類等」に記載の「⑬他研究科での在学期間証明書」を提出できる者です。

(注4) 2の「出願資格」(10)に該当する「大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者」とは、出願資格の審査として、書類審査の後に学力検査(筆記試験、口頭試問)及び面接を行い、出願資格を認められた者です。

ただし、提出書類等により、個人の能力の確認ができる場合は、筆記試験は免除することがあります。

(注5) 2の「出願資格」(12)に該当する「外国において学校教育における15年の課程を修了した者」とは、大学卒業までに15年を要する国において、飛び級し、大学教育を修了した者も含まれます。

(注6) 2の「出願資格」(11)～(14)に定める「大学院が定める単位を優秀な成績で修得したと認められたもの」については、別に定めます。

3 出願資格審査

前記2の「出願資格」(10)～(14)における入学志願者は、出願に先立ち出願資格審査を行いますので、事前に出願資格審査要項を「IV出願書類の提出先(p.13)」に請求し、期限までに提出してください。

申請書類提出期間 平成29年12月11日(月)～12月13日(水)(必着)

なお、審査結果は、平成29年12月21日(木)(予定)に本人に通知します。

4 障がい等のある方の出願

障がい等のある入学志願者は、受験上及び修学上特別な配慮を必要とすることがありますので、出願に先立ち、次により相談してください。

相談結果の通知及び特別な配慮に基づく必要な措置を講ずるための所要時間を考慮し、少しでも早く相談してください。

相談締切期限 平成29年12月13日(水)

相談方法 「出願に伴う事前相談書」を請求して医師の診断書、障害者手帳の写し(交付されている方のみ)を添えて、「IV出願書類の提出先(p.13)」に相談してください。

5 出願手続

入学志願者は、出願前のなるべく早い時期に志望指導教員と連絡を取り、研究内容及び試験内容等について相談してください。

(1) 出願方法

入学志願者は、(5)の「出願に必要な書類等」を、出願期間内に必着するよう「書留・速達」として郵送してください。

(2) 出願期間

平成30年1月9日(火)～1月11日(木)

持参する場合の受付時間は、午前8時30分から午後5時00分までです。ただし、正午から午後1時までを除きます。

郵送する場合は、必ず「書留・速達」とし、封筒の表に「大学院ヘルスシステム統合科学研究科博士前期課程一般入試出願書類」と朱書して、上記の出願期間内に必着するように郵送してください。

(3) 提出先

「IV出願書類の提出先(p.13)」へ提出してください。

(4) 出願上の注意

- ① 出願後の出願書類等の記載内容についての変更は認められません。
- ② 出願書類受理後は、いかなる理由があっても返却しません。
- ③ 出願書類に不備があるもの及び入学検定料に不足のあるものは受理しません。

- ④ 出願書類等の記載内容に虚偽の記載があった場合は、入学後においても入学が取り消されることがありますので注意してください。
- ⑤ 改姓（名）前の証明書を使用する場合の提出書類については、志願票の氏名と異なる旧姓（名）の記載された証明書も使用できますが、その場合は、改姓（名）の日付と新旧姓（名）を入学志願者本人が記入した文書（様式は任意です。）を添付してください。

(5) 出願に必要な書類等

出願に必要な書類	摘 要
① 志 願 票 受 験 票 写 真 票	本研究科所定の用紙に入学志願者本人が必要事項を記入してください。
② 写 真	縦4.0cm×横3.0cm、上半身、無帽、正面向きで出願前3か月以内に撮影したものを「志願票」「写真票」の所定欄にのりで貼り付けてください。 貼る前に、写真の裏面に志望教育研究分野名と氏名を記入してください。
③ 入学検定料	30,000円（振込手数料が別に必要です。） 入学検定料は、添付の「入学検定料振込用紙」により、金融機関（ゆうちょ銀行又は郵便局を含む。）窓口（ATMは利用できません。）からの振込によって納入し、必ず、右端の「入学検定料振込証明書」を志願票の所定欄にのりで貼り付けてください。 入学検定料の返還について 次の場合を除き、いかなる理由があっても振込済の入学検定料は返還しません。 ア 入学検定料を振り込んだが出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合 イ 入学検定料を誤って二重に振り込んだ場合 ウ 国費外国人留学生の入学志願者は、原則として入学検定料の納入は不要ですが、平成30年3月31日限りで奨学金支給期間が終了する場合は、入学検定料の納入が必要です。 なお、奨学金受給期間の延長が認められた場合には、入学検定料を返還します。
④ 学業成績証明書 及び 卒業(見込)証明書	出身大学の学長又は学部長が作成し、作成者が厳封したものを提出してください。 なお、本学の卒業生及び卒業見込みの入学志願者は厳封不要です。 短期大学を修了後又は専修学校専門課程を卒業後、編入学により大学を卒業した入学志願者は、出身短期大学又は出身専修学校専門課程の学業成績証明書もあわせて提出してください。
⑤ 履 歴 書	最終の学校（大学等）を外国で卒業した入学志願者のみ 本研究科所定の用紙により提出してください。
⑥ 住 民 票	日本国籍を有しない日本在住の外国人の入学志願者のみ 市区町村長の交付する住民票（在留資格が明記されたもの）を提出してください。
⑦ 国費外国人 留学生証明書	国費外国人留学生の入学志願者のみ （在籍する学校が作成する奨学金支給期間が明記された証明書でも可）
⑧ 学士の学位授与 （申請受理） 証明書等	2の「出願資格」(2)に該当する（見込み）入学志願者のみ、次のものを提出してください。 〔学位を授与された入学志願者〕 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が発行した学位授与証明書 〔学位の授与を申請中の入学志願者〕 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が発行した学位授与申請受理証明書 〔学位の授与を申請予定の入学志願者〕 短期大学長又は高等専門学校長が作成し、厳封した次の証明書を提出してください。 ア 専攻科の修了見込証明書 イ 学位の授与を申請する予定である旨の証明書（様式任意）

⑨ 受験票等送付用封筒	所定の封筒に、入学志願者本人の住所、氏名及び郵便番号を明記し、362円分の切手を貼ってください。受験票を送付するのに使用します。
⑩ 連絡受信先届	受信先住所等を記入してください。
⑪ 語学能力試験の成績証明書	<p>※「生体機能分子設計学」、「1分子生物化学」、「細胞機能設計学」、「無機バイオ材料工学」、「生体分子工学」、「蛋白質医用工学」、「ナノバイオシステム分子設計学」、「オルガネラシステム工学」、「人間情報処理学」、「医用情報ネットワーク学」、「先端医用電子工学」、「インタフェースシステム学」、「認知神経科学」の各教育研究分野の入学志願者は、以下の書類を提出してください。確認後、お返しします。</p> <p>試験日の2年前から出願までの間に受験した下記のいずれかの英語能力試験の成績証明書（試験実施団体の発行したTOTAL SCOREの確認できる資料）の原本を提出してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • TOEIC®（Test of English for International Communications）（公開テスト） • TOEIC® - L&R（Test of English for International Communication—Listening & Reading） • TOEIC® - L&R - IP（Test of English for International Communication—Listening & Reading—Institutional Program） • TOEIC® IP（Test of English for International Communications—Institutional Program） <p>団体特別受験制度（カレッジTOEIC®もこれに含まれます。）で受験した場合は、写真票等による本人確認を実施しているものに限りします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • TOEFL®-PBT（Test of English as a Foreign Language—ペーパーテスト） • TOEFL®-iBT（Test of English as a Foreign Language—インターネットテスト） <p>なお、上記の複数の英語能力試験を受験し、複数の成績証明書を提出した場合は、有利なものを採用します。</p> <p>※「臨床応用看護学」、「生体情報科学」、「放射線健康支援科学」、「基礎看護学」、「生体機能再生再建医学」、「医療技術臨床応用学」の各教育研究分野の入学志願者のうち、日本在住の外国人の入学志願者のみ、以下の書類を提出してください。確認後、お返しします。</p> <p>志望指導教員と相談し、以下のうちいずれか1つを提出してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • TOEFL®-iBT（Test of English as a Foreign Language—インターネットテスト）の61点以上の成績証明書 • 日本語能力試験N2（または2級）以上の合格通知書 <p>※「人間文化論」、「日本文化論」、「医事法学」、「科学史技術論」、「臨床死生学」、「ソーシャルイノベーション論」の各教育研究分野の入学志願者は、提出不要です。</p>
⑫ 研究計画書	「臨床応用看護学」、「生体情報科学」、「放射線健康支援科学」、「基礎看護学」、「生体機能再生再建医学」、「医療技術臨床応用学」、「人間文化論」、「日本文化論」、「医事法学」、「科学史技術論」、「臨床死生学」、「ソーシャルイノベーション論」の各教育研究分野の入学志願者のみ 本研究科所定の用紙により提出してください。
⑬ 他研究科での在学期間証明書	2の「出願資格」(9)に該当する入学志願者のみ

(6) 個人情報の利用目的

提出された出願書類等及びこれらに記載されている個人情報は、入学者選抜に係る業務に使用します。

ただし、入学者については、志願票に記載された氏名、性別、生年月日、現住所、出身学校等の個人情報を、本学学務システムの学生基本情報への登録データとしても利用します。

また、合格者の受験番号、氏名（漢字・カナ）の個人情報については、本学授業料債権管理システム及び授業料免除事務システムの業務にも利用します。

なお、入学料免除の申請、入学料徴収猶予の申請、授業料免除の申請及び独立行政法人日本学生支援機構奨学金等への申請があった場合は、申請者本人の入学試験成績及び学業成績証明書を、入学料徴収猶予等の業務に係る学力判定処理に利用することがあります。

6 受験票の交付

受験票は、平成30年1月16日（火）頃に本人あて発送します。

なお、1月23日（火）までに到着しない場合には、「IV出願書類の提出先（p.13）」に連絡してください。

7 入学者選抜方法等

入学者の選抜は、学力検査等（筆記試験及び口頭試問又は面接）及び書類審査の結果を総合して行います。

学力検査等の詳細は、出願前の志望指導教員への相談並びに別表（p.6）にて確認してください。

（1）試験日程

平成30年1月27日（土）及び1月28日（日）

詳細は、別表（p.6）を参照してください。

（2）試験場

試験場は、受験票を送付する際に通知します。

8 合格者発表

合格者の発表は、次のとおり掲示により行います。

日 時	掲示場所
平成30年2月16日（金）10時	岡山大学自然系研究科等 学務課大学院担当 （工学部1号館1階）事務室前掲示版

- ① 掲示板に合格者の受験番号を公表し、同日付で合格者には合格通知書等を本人あてに送付します。
- ② 掲示による合格者発表後、ホームページにも合格者の受験番号を掲載します。
（<http://www.okayama-u.ac.jp/>）
- ③ 電話等による可否の問い合わせには、一切応じません。

9 入学手続

（1）入学手続方法

詳細は、合格者に別途通知します。

（2）入学手続期間

平成30年3月19日（月）及び3月20日（火）

10 その他

（1）入学料及び授業料

入学料 282,000円（予定額）

授業料（前期分）267,900円（年額535,800円）（予定額）

※入学時及び在学中に改定が行われた場合には、改定時から新たな金額が適用されます。

（2）修学援助

修学援助の一環として、入学料免除・徴収猶予、授業料免除及び奨学金等の制度があります。

（3）募集要項及び出願資格審査要項の請求について

募集要項を郵送で請求する場合は、請求する封筒に「大学院ヘルスシステム統合科学研究科博士前期課程一般入試募集要項請求」と朱書し、返信用封筒〔角型2号（縦33.1cm×横24.0cm）に205円分の切手を貼り、郵便番号、住所、氏名を明記したもの〕を同封し、「IV出願書類の提出先（p.13）」あて申し込んでください。

なお、出願資格(10)～(14)により出願するため、募集要項に併せて出願資格審査要項を請求する者は、上記の請求封筒に「ヘルスシステム統合科学研究科出願資格審査要項請求」と朱書で併記してください。

別 表

学力検査等の試験科目，日時及び場所等

【一般入試】

日 時 教育研究分野	平成30年1月27日（土）	平成30年 1月28日（日）
	筆記試験・論述試験	
生体機能分子設計学 1分子生物化学 細胞機能設計学 無機バイオ材料工学 生体分子工学 蛋白質医用工学 ナノバイオシステム分子設計学 オルガネラシステム工学	なし	13：00～ 口頭試問
人間情報処理学 医用情報ネットワーク学 先端医用電子工学 インタフェースシステム学 認知神経科学	なし	13：00～ 口頭試問
臨床応用看護学 生体情報科学 放射線健康支援科学 基礎看護学 生体機能再生再建医学 医療技術臨床応用学	なし	13：00～ 面接，口頭試問 専門科目の口述試験等を含む
人間文化論 日本文化論 医事法学 科学史技術論 臨床死生学 ソーシャルイノベーション論	14：00～16：00 論述試験Ⅰ 「人間文化論」，「日本文化論」，「医事法学」，「科学史技術論」，「臨床死生学」，「ソーシャルイノベーション論」の教育研究分野を志望する受験生の共通問題。広く「医療」に関わるテーマを提示し，自分の希望する教育研究分野に即して，課題を明示し，それに対して自分の考えを論じる。 論述試験Ⅱ 自分の希望する教育研究分野の指定する問題を選択すること。なお，いずれの教育研究分野の設問においても，英語や資料読解の問題を出題することがある。 「人間文化論」：西洋哲学思想・宗教文化に関する内容を出題 「日本文化論」：アジア・日本の思想や文化に関する内容を出題 「医事法学」：医事法（医療過誤，インフォームド・コンセントを中心とする民事法）に関する内容を出題 「科学史技術論」：科学技術論に関する内容を出題 「臨床死生学」：生命倫理学・死生学に関する内容を出題 「ソーシャルイノベーション論」：技術革新とその社会的適用に関する内容を出題	13：00～ 面接 提出された研究計画書などについて，専門的な知識についても必要に応じて質問をすることもある

試験場：岡山大学工学部・自然科学研究科棟（岡山市北区津島中3-1-1）

（注1）面接，口頭試問の試験室等は，試験日初日に指示します。

（注2）語学能力筆記試験は実施せず，語学能力試験の成績を利用します。詳細は「5 出願手続（5）出願に必要な書類等 ⑪」（p. 4）を参照してください。

Ⅲ 平成30年 4月入学 外国人留学生特別入試 学生募集要項

<概 要>

手続の日程等

項 目	期 日 等
出願資格審査書類提出期間	平成29年12月11日(月)～12月13日(水) 出願資格審査の必要な者のみ
出 願 期 間	平成30年1月9日(火)～1月11日(木) 出願書類等は別途掲載
試 験 期 日	平成30年1月27日(土)～1月28日(日) 学力検査等及び出願書類により総合的に評価し選考します。
合 格 者 発 表	平成30年2月16日(金) 10時
入 学 手 続	平成30年3月19日(月)及び3月20日(火)

手続等の詳細については、次ページ以降を必ずご覧ください。

Ⅲ 平成30年 4月入学 外国人留学生特別入試 学生募集要項

1 募集人員

専攻	募集人員
ヘルスシステム統合科学専攻	若干人

2 出願資格

- (1) 日本国籍を有しない者
- (2) 「出入国管理及び難民認定法」に定める「留学」の在留資格を有する者又は大学院入学後に「留学」の在留資格を取得できる者

上記(1)、(2)の要件を満たし、次の各項のいずれかに該当する者又は平成30年3月までに該当する見込みの者

- ① 大学を卒業した者
- ② 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- ④ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- ⑤ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- ⑥ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者（平成17年文部科学省告示第169号参照）
- ⑦ 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したもの
- ⑧ 大学に3年以上在学している者で、大学院が定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
- ⑨ 外国において学校教育における15年の課程を修了した者で、大学院が定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
- ⑩ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者で、大学院が定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
- ⑪ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、大学院が定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの

(注1) 2の「出願資格」②に該当する「外国において学校教育における16年の課程を修了した者」とは、外国において正規の学校教育における16年の課程を修了した者です。

なお、大学卒業までに16年を要する国で修学した者が、飛び級している場合は、16年目の課程を修了していれば、22歳未満であっても上記に該当します。

(注2) 2の「出願資格」⑦に該当する「大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者」とは、出願資格の審査として、書類審査の後に学力検査（筆記試験、口頭試験）及び面接を行い、出願資格を認めた者です。

ただし、提出書類等により、個人の能力の確認ができる場合は、筆記試験は免除することがあります。

(注3) 2の「出願資格」⑨に該当する「外国において学校教育における15年の課程を修了した者」とは、大学卒業までに15年を要する国において、飛び級し、大学教育を修了した者も含まれます。

(注4) 2の「出願資格」⑧～⑩に定める「大学院が定める単位を優秀な成績で修得したと認められたもの」については、別に定めます。

3 出願資格審査

前記2の「出願資格」⑦～⑩における入学志願者は、出願に先立ち出願資格審査を行いますので、事前に出願資格審査要項を「IV出願書類の提出先(p.13)」に請求し、期限までに提出してください。

申請書類提出期間 平成29年12月11日(月)～12月13日(水) (必着)

なお、審査結果は、平成29年12月21日(木) (予定)に本人に通知します。

4 障がい等のある方の出願

障がい等のある入学志願者は、受験上及び修学上特別な配慮を必要とすることがありますので、出願に先立ち、次により相談してください。

相談結果の通知及び特別な配慮に基づく必要な措置を講ずるための所要時間を考慮し、少しでも早く相談してください。

相談締切期限 平成29年12月13日(水)

相談方法 「出願に伴う事前相談書」を請求して医師の診断書、障害者手帳の写し(交付されている方のみ)を添えて、「IV出願書類の提出先(p.13)」に相談してください。

5 出願手続

入学志願者は、出願前のなるべく早い時期に志望指導教員と連絡を取り、研究内容及び試験内容等について相談してください。

(1) 出願方法

入学志願者は、(5)の「出願に必要な書類等」を、出願期間内に必着するよう「書留・速達」として郵送してください。

(2) 出願期間

平成30年1月9日(火)～1月11日(木)

持参する場合の受付時間は、午前8時30分から午後5時00分までです。ただし、正午から午後1時までを除きます。

郵送する場合は、必ず「書留・速達」とし、封筒の表に「大学院ヘルスシステム統合科学研究科博士前期課程外国人留学生特別入試出願書類在中」と朱書して、上記の出願期間内に**必着**するように郵送してください。

(3) 提出先

「IV出願書類の提出先(p.13)」へ提出してください。

(4) 出願上の注意

- ① 出願後の出願書類等の記載内容についての変更は認められません。
- ② 出願書類受理後は、いかなる理由があっても返却しません。
- ③ 出願書類に不備があるもの及び入学検定料に不足のあるものは受理しません。
- ④ 出願書類等の記載内容に虚偽の記載があった場合は、入学後においても入学が取り消されることがありますので注意してください。
- ⑤ 改姓(名)前の証明書を使用する場合の提出書類について、志願票の氏名と異なる旧姓(名)の記載された証明書も使用できますが、その場合は、改姓(名)の日付と新旧姓(名)を入学志願者本人が記入した文書(様式は任意です。)を添付してください。

(5) 出願に必要な書類等

入学志願者は、一般入試募集要項「5 出願手続(5) 出願に必要な書類等(p.3～p.4)」に記載の出願書

類①～⑩（⑧を除く）の他、以下の書類を取りそろえ、「Ⅳ出願書類の提出先（p.13）」へ提出してください。

出願に必要な書類	摘 要
⑪ 語学能力試験の成績証明書	<p>※「臨床応用看護学」、「生体情報科学」、「放射線健康支援科学」、「基礎看護学」、「生体機能再生再建医学」、「医療技術臨床応用学」の各教育研究分野の入学志願者は、以下の書類を提出してください。確認後、お返しします。</p> <p>志望指導教員と相談し、以下のうちいずれか1つを提出してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • TOEFL®-iBT（Test of English as a Foreign Language—インターネットテスト）の61点以上の成績証明書 • 日本語能力試験N2（または2級）以上の合格通知書 <p>※「人間文化論」、「日本文化論」、「医事法学」、「科学史技術論」、「臨床死生学」、「ソーシャルイノベーション論」の各教育研究分野の入学志願者は、以下の書類を提出してください。確認後、お返しします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日本語能力試験N1（または1級）の合格通知書
⑫ 研究計画書	<p>「臨床応用看護学」、「生体情報科学」、「放射線健康支援科学」、「基礎看護学」、「生体機能再生再建医学」、「医療技術臨床応用学」、「人間文化論」、「日本文化論」、「医事法学」、「科学史技術論」、「臨床死生学」、「ソーシャルイノベーション論」の各教育研究分野の入学志願者のみ 本研究科所定の用紙により提出してください</p>

（6）個人情報の利用目的

提出された出願書類等及びこれらに記載されている個人情報は、入学者選抜に係る業務に使用します。

ただし、入学者については、志願票に記載された氏名、性別、生年月日、現住所、出身学校等の個人情報を、本学学務システムの学生基本情報への登録データとしても利用します。

また、合格者の受験番号、氏名（漢字・カナ）の個人情報については、本学授業料債権管理事務システム及び授業料免除事務システムの業務にも利用します。

なお、入学料免除の申請、入学料徴収猶予の申請、授業料免除の申請及び独立行政法人日本学生支援機構奨学金等への申請があった場合は、申請者本人の入学試験成績及び学業成績証明書を、入学料徴収猶予等の業務に係る学力判定処理に利用することがあります。

6 受験票の交付

受験票は、平成30年1月16日（火）頃に本人あて発送します。

なお、1月23日（火）までに到着しない場合には、「Ⅳ出願書類の提出先（p.13）」に連絡してください。

7 入学者選抜方法等

入学者の選抜は、学力検査等（筆記試験及び口頭試問又は面接）及び書類審査の結果を総合して行います。学力検査等の詳細は、出願前の志望指導教員への相談並びに別表（p.11）にて確認してください。

（1）試験日程

平成30年1月27日（土）及び1月28日（日）

詳細は、別表（p.11）を参照してください。

（2）試験場

試験場は、受験票を送付する際に通知します。

8 合格者発表

合格者の発表は、次のとおり掲示により行います。

日 時	掲示場所
平成30年2月16日（金）10時	岡山大学自然系研究科等 学務課大学院担当 （工学部1号館1階）事務室前掲示板

- ① 掲示板に合格者の受験番号を公表し、同日付けで合格者には合格通知書等を本人あてに送付します。
- ② 掲示による合格者発表後、ホームページにも合格者の受験番号を掲載します。
（<http://www.okayama-u.ac.jp/>）
- ③ 電話等による合否の問い合わせには、一切応じません。

9 入学手続

（1）入学手続方法

詳細は、合格者に別途通知します。

（2）入学手続期間

平成30年3月19日（月）及び3月20日（火）

10 その他

（1）入学料及び授業料

入学料 282,000円（予定額）

授業料（前期分）267,900円（年額535,800円）（予定額）

※入学時及び在学中に改定が行われた場合には、改定時から新たな金額が適用されます。

（2）修学援助

修学援助の一環として、入学料免除・徴収猶予、授業料免除及び奨学金等の制度があります。

（3）募集要項及び出願資格審査要項の請求について

募集要項を郵送で請求する場合は、請求する封筒に「大学院ヘルスシステム統合科学研究科博士前期課程外国人留学生特別入試募集要項請求」と朱書し、返信用封筒[角型2号（縦 33.1 cm×横 24.0 cm）に205円分の切手を貼り、郵便番号、住所、氏名を明記したものを同封し、「Ⅳ出願書類の提出先（p.13）」あて申し込んでください。

なお、2の「出願資格」⑦～⑩により出願するため、募集要項に併せて出願資格審査要項を請求する者は、上記の請求封筒に「ヘルスシステム統合科学研究科出願資格審査要項請求」と朱書で併記してください。

別 表

学力検査等の試験科目、日時及び場所等

【外国人留学生特別入試】

日 時 教育研究分野	平成30年1月27日(土)		平成30年 1月28日(日)
	筆記試験・論述試験		口頭試問・面接
生体機能分子設計学 1分子生物化学 細胞機能設計学 無機バイオ材料工学 生体分子工学 蛋白質医用工学 ナノバイオシステム分子設計学 オルガネラシステム工学	10:00~ 12:00 英語及び 日本語	14:00~16:00 専門科目	13:00~ 面接
人間情報処理学 医用情報ネットワーク学 先端医用電子工学 インタフェースシステム学 認知神経科学	10:00~ 12:00 英語及び 日本語	14:00~16:00 専門科目	13:00~ 面接
臨床応用看護学 生体情報科学 放射線健康支援科学 基礎看護学 生体機能再生再建医学 医療技術臨床応用学	なし	なし	13:00~ 面接、口頭試問 専門科目の口述試験等を含む
人間文化論 日本文化論 医事法学 科学史技術論 臨床死生学 ソーシャルイノベーション論	なし	14:00~16:00 論述試験Ⅰ 「人間文化論」、「日本文化論」、「医事法学」、「科学史技術論」、「臨床死生学」、「ソーシャルイノベーション論」の教育研究分野を志望する受験生の共通問題。広く「医療」に関わるテーマを提示し、自分の希望する教育研究分野に即して、課題を明示し、それに対して自分の考えを論じる。 論述試験Ⅱ 自分の希望する教育研究分野の指定する問題を選択すること。なお、いずれの教育研究分野の設問においても、英語や資料読解の問題を出題することがある。 「人間文化論」：西洋哲学思想・宗教文化に関する内容を出題 「日本文化論」：アジア・日本の思想や文化に関する内容を出題 「医事法学」：医事法（医療過誤、インフォームド・コンセントを中心とする民事法）に関する内容を出題 「科学史技術論」：科学技術論に関する内容を出題 「臨床死生学」：生命倫理学・死生学に関する内容を出題 「ソーシャルイノベーション論」：技術革新とその社会的適用に関する内容を出題	13:00~ 面接

試験場：岡山大学工学部・自然科学研究科棟（岡山市北区津島中3-1-1）

（注）面接、口頭試問の試験室等は、試験日に指示します。

IV 出願書類の提出先

IV 出願書類の提出先

出 願 書 類 の 提 出 先
岡山大学自然系研究科等 学務課 大学院担当 (工学部1号館1階) 〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 TEL 086 (251) 8576

(注) 出願資格審査要項の請求, 出願資格審査書類の提出, 募集要項の請求及び
問い合わせについても上記にて行います。

岡山大学URL <http://www.okayama-u.ac.jp/>

岡山大学研究者総覧URL <http://sorran.cc.okayama-u.ac.jp/>

V ヘルスシステム統合科学研究科 専攻案内

※本専攻案内は、平成29年11月1日時点の内容です。

ヘルスシステム統合科学専攻 ヘルスシステム統合科学講座

教育研究分野名	教育研究分野の内容	担当教員
生体機能分子設計学	核酸結合タンパク質や酵素を始めとした、生体機能制御分子の機能解析及び得られた知見に基づいて設計した人工生体機能分子の医療・農業への応用を目指した異分野融合研究	世良 貴史 教授 飛松 孝正 准教授 △森 光一 助教
1分子生物化学	タンパク質の機能解析及びその分子機構の解明、医療・環境科学への応用	井出 徹 教授 △早川 徹 助教
細胞機能設計学	細胞内シグナル伝達研究と創薬科学および免疫系細胞の機能解析と疾患治療への応用	徳光 浩 教授 金山 直樹 准教授 △曲 正樹 助教
無機バイオ材料工学	無機材質を基本とした構造が精密に制御された医用材料の設計と応用に関する研究	早川 聡 教授 吉岡 朋彦 准教授
生体分子工学	新規生体機能分子の設計に立脚し、主としてRNAの働きに着眼した生命工学・生命科学研究	大槻 高史 教授
蛋白質医用工学	蛋白質の効率的な生産・解析法の開発と医用工学分野への応用に関する研究	二見 淳一郎 准教授
ナノバイオシステム分子設計学	細胞機能を利用した病態モデルの構築と治療方法の開発に関する研究	妹尾 昌治 教授 村上 宏 准教授
オルガネラシステム工学	細胞内オルガネラ形成や物質輸送制御の機序解明とその応用に関する研究	佐藤 あやの 准教授
人間情報処理学	信号処理、確率統計理論、機械学習等に基づいて人間の視聴覚情報処理や行動を分析、モデル化すると共に、それらをサービスに応用する研究	阿部 匡伸 教授 相田 敏明 講師
医用情報ネットワーク学	コンピュータネットワークや通信プロトコルの性能解析・評価法及び高信頼化・高機能化法とそれらの医用への応用	横平 徳美 教授
先端医用電子工学	バイオ・メディカル分野で重要なセンサデバイスをを用いた各種計測技術、システム化及び信号処理設計に関する研究	塚田 啓二 教授 紀和 利彦 准教授
インタフェースシステム学	人間と協調したり人間の活動を支援するヒューマン・マシン・インタフェース技術及びロボット技術とそれらの医療・介護システムへの応用に関する教育研究	五福 明夫 教授 亀川 哲志 講師
認知神経科学	認知心理学とニューロンイメージング手法を用いたヒトの認知神経機能の解明及び医療福祉への応用に関する教育研究	呉 景龍 教授 高橋 智 准教授
臨床応用看護学	末期癌患者におけるコミュニケーションの態様と行動変容の関連についての研究	松岡 順治 教授
生体情報科学	生体情報を正しく計測・処理する技術およびその解析・評価法、さらに得られた情報、データベース等に基づいた社会での活用に関する教育研究	岡 久雄 教授
放射線健康支援科学	医療分野における放射線の物理計測・評価技術の開発応用や生体への治療効果・副作用など予測シミュレーションに関する研究	笈田 将皇 准教授
基礎看護学	基礎看護教育における医療事故防止のための支援介入・看護技術に関する教育研究、および在宅介護者のソーシャルサポートに関する研究	兵藤 好美 教授
生体機能再生再建医学	医工連携による機器開発と評価、視覚に係る臨床研究、社会や医療における視覚の役割に関する研究	松尾 俊彦 准教授
医療技術臨床応用学	ナノテクノロジーを用いた医薬品などを、実際の疾患治療に活用する際の、疾患知見を踏まえ血管や繊維組織を中心とした生物学的な反応解析研究、または、医療データによる疫学的な解析研究	狩野 光伸 教授

ヘルスシステム統合科学専攻 ヘルスシステム統合科学講座

教育研究分野名	教育研究分野の内容	担当教員
人間文化論	人口減少・超高齢化社会における生き方を支える価値観創出のための基盤となる西洋哲学思想・宗教文化の研究	出村 和彦 教授
日本文化論	医療・ケアの現場に根ざした東アジア・日本の老年観・死生観を中心とした研究	本村 昌文 教授
キリスト教文化論	東西キリスト教の伝統における人間観（とくに、命のはじまりや老いと死に関する問題）についての思想史的・宗教学的の研究	△袴田 玲 助教
医事法学	医療現場に生起する法的諸課題を医療行為と医療制度の両面から把握・分析したうえで、解決策を提示し得る人材の養成を志向する教育研究	山下 登 教授
科学史技術論	ケアにかかわる科学技術の発展と高齢化諸問題との関連やあり方に関する研究	※吉葉 恭行 教授
臨床死生学	医療・ケア現場における死生に関する課題と、問題解決のための理論・具体的方法のあり方の臨床死生学的な研究	※日笠 晴香 講師
ソーシャルイノベーション論	医療・ケア現場における多様な課題に対する技術革新および社会イノベーションの開発・適用に関する教育研究	藤井 大児 教授 ※青尾 謙 講師
医療人類学	ベトナムの枯葉剤問題に関する文化人類学の視点からの研究	△上杉 健志 准教授

注1) △印の教員は、指導教員として志望できません。

注2) ※印の教員を指導教員として志望する入学志願者は、出願前に「IV出願書類の提出先（p. 13）」に連絡してください。